

輸配送量に最適な車両を配置し 積載効率を向上

このコーナーでは、運送事業において自社の利益を残すためには、具体的にどのような取り組みが必要なのかについて紹介しています。今月は、積載効率を向上させ利益につなげるポイントについて、船井総研ロジ株式会社の鈴木敦大氏に解説してもらいます。

近年の積載効率は低下傾向に

車両ごとの積載効率を日々把握し、車両の効率化を追求することは配車担当者の使命です。しかし、物流業界全体でみると積載効率は年々低下。この原因は消費者ニーズに対応し、多頻度小ロット化や、サービスレベル(時間指定・最短リードタイムなど)を追求した結果といえます。

このような状況下で積載効率を向上させるための方策としては、「配送ルートの見直し」や、「荷主企業に対して最低発注数量の設定・納品時の時間指定撤廃」などがあげられます。しかし、私はもっと根本的なことに目を向けるべきだと考えます。

商品マスターの整備・更新や車格を再確認

積載効率(%)は「 $\text{輸配送量} \div \text{最大積載量} \times 100$ 」で求められます。そのため積載効率を高めるには、「**輸配送量を大きくする**」か？「**最大積載量を小さくする**」か？という根本的な2点だと考えます。下記に、それぞれの場合に取る組み際のポイントをあげました。

「輸配送量を大きくする」ためには

- 商品マスター(縦・横・高さ・容積・重量)がしっかりと整備・更新されているかを確認

商品マスターが整備・更新されていない場合、配車組みを行った輸配送量(理論値)と、実際に積み込んだ際の輸配送量(実績値)とに相違が生じて、積載効率を低下させる可能性があります。「輸配送量を大きくする」ためには、商品マスターの整備・更新が不可欠です。

- PC上で配車組みを行える仕組みを構築

配車を紙ベースで行っている会社は、担当者が独自で商品の重量や容積を算出しなければならず、その計算が少しでも間違っていれば積載効率の低下を招く恐れがあります。まずは、PC上で配車組みが行える仕組みを構築しましょう。

「最大積載量を小さくする」ためには

- 輸配送量に合った車両を適切に配置

現状の取扱商品の重量と保有している車両の車格が適切なのか改めて確認してください。例えば、輸配送量が2トンしかないのに4トン車両を使用していれば積載効率は大きく低下します。積載効率を向上させるためには、輸配送量に合った最適な車両を配置しましょう。

以上が、積載効率向上のための根本的な対策です。現状見直すべき点(商品マスターの整備・更新や保有車両の車格)に着目し、改善に努めてください。